

# 私立 山口東京理科大学

## 地域連携に基づいたキーパーソンリーダー育成事業の構築

取組期間	2009(平成21)年度～2010(平成22)年度
区分	就職支援推進プログラム
所在地	〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通1-1-1
設置者	学校法人 東京理科大学

### 取組内容とその成果

#### プログラムの目的及び内容

本プログラムは、経済状況に極力影響されない、安定したきめ細かい就職支援体制を構築し、学生個々の職業観に応じた満足度を高めることを目的としている。このために、地域社会を中心としたネットワークを強化し、求人増大、学生との相談体制の強化等、就職支援体制の強化を図るとともに、地域産業界に貢献するリーダーを育成すべく、技術士資格の取得や就職後の働き方・生き方についての理解を深めるための教育を展開する。

具体的には、地元企業・自治体等との連携を強化し、求人先の拡大を図るとともに、カウンセリング業務の充実、求人管理システムの整備、地元自治体等との協働による企業訪問、技術士会との連携、地域社会と連携した事業評価報告会の開催等を行う。

#### 到達目標

本プログラムの到達目標は、学生一人ひとりが納得し満足できる職業を選択し、適切な自己実現を図り、これによって本学の基本理念である「人間性豊かな科学技術者の育成」を達成し、地域の活性化に貢献できるキーパーソンを育成することである。

具体的な達成度としては、就職決定者の中で山口県内での就職決定率を30%以上とし、全体の就職決定率を80%以上とする。(2008(平成20)年度までは山口県内における就職決定率は10%程度であり、決して高い数値とは言えない状況であった。)

また、山口県出身者においてはこの数値をさらに高め、県内及び周辺地域に50%程度就職することを目指す。これによって、地元出身者が地元の大学で学び、地元で就職して地域活性化に貢献する、人材育成のサイクルができ上がることになる。

#### プログラムの実施内容

##### 1. カウンセリング業務の充実

キャリアカウンセラーと心理カウンセラーの2名を配置し、就職担当の教職員とともに、複雑化・多様化する学生のニーズに適切に対応する。

##### 2. 求人管理システムの整備

企業訪問等で得られた情報を多面的に分析し、タイムリーに学生に提供することによって、外部業者だけに頼らない、本学の学生に適合した採用情報を提供する。

##### 3. 地元自治体等との協働による企業訪問

地域に熟知した自治体等と大学が協働で企業を訪問し、地元での求人先拡大を図る。

##### 4. 技術士会との連携

母体校である東京理科大学のネットワークを活用し、技術士資格取得の促進を図る。

##### 5. 地域社会と連携した事業評価報告会の開催

地元企業・自治体・高等学校等と連携して事業の効果を検証し、事後の改善に繋げる。

#### プログラムの成果

##### 1. 当該プログラムの周知方法等

###### ①就職活動サポートブックの発行・配布

本学では、就職活動に必要な様々な情報を「就職活動サポートブック」として1冊の冊子にまとめ、就職活動に入る学部3年生全員に配布している。このサポートブックにおいて、学生の窓口となる就職資料室の案内や求人情報の見方、求人管理システムへのアクセス方法などについて周知した。

###### ②学生専用の電子メールによる周知

本学では学生全員にノート型パソコンを携帯させ、専用の電子メールアドレスを発行している。これによっていつでも、どこでも本学からのお知らせを受け取ることができる。本プログラムにおいても、カウンセリングの案内や技術士講演会の周知など、電子メールを活用することによってタイムリーに、確実に情報伝達を行った。

### ③就職に係る専用ホームページの開設

就職に関する情報を広く周知するため、本学のホームページ内に専用のホームページを開設しており、在学生向けの「就職情報」のページにおいて、本プログラムで開発した「求人管理システム」を公開している。なお、求人情報は学生及び学内関係者のみ公開しているが、パスワードを入力することによって学外からも閲覧できるようにしており、就職活動に支障のないように配慮している。

### ④学園生活、学修簿による周知

新入学生全員に配布している「学園生活」(学生生活に関わるガイドブック)において、「キャリアウンセラー」「心理カウンセラー」の相談案内を掲載したほか、「学修簿」(学修計画を立てるための手引き)において、「技術士」について学修との関係を含めて解説している。

### ⑤掲示板による周知

学生向けのプログラムについては、就職資料室及び学科の掲示板に案内を掲示し、広く周知している。

### ⑥取組紹介ホームページの開設

本学ホームページ内に、本取組を紹介するホームページを開設し公開している。

## 2. 当該プログラムの成果

### ①自己評価は、どのような観点で行ったか。

#### ア. 就職実績

本プログラムが学生の就職支援に関わる内容であることから、申請の際に設定した、「就職決定者の中で山口県内での就職決定率を30%以上とし、全体の就職決定率を80%以上とする。」を達成できたかについて評価した。

また、地元出身者による地域の活性化を図る観点から、山口県出身者において、県内及び周辺地域に50%程度就職が達成されたかも併せて評価した。

#### イ. 学生からの相談件数

カウンセリング業務の充実をプログラムの柱に据えていることを踏まえ、学生からの相談件数について、年度で比較し評価した。

#### ウ. 求人方法の改善

地域の企業に多くの就職者を送り込むために、企業訪問や求人票発送といったこれまでの方法に加え、新たな改善が見られたかを評価した。

#### エ. 技術士資格取得に向けてのより簡便なシステム構築

技術士の資格を取得するためには、大学卒業時に「修習技術者」となり、卒業後自ら選定した「指導技術士」のもとで「技術士補」として4年以上の実務経験を積み、さらに国家試験に合格する必要がある。技術士資格取得者の増加のために、学生の立場に立ったより簡便なシステムを構築できたかを評価の観点とした。

#### オ. 地域関係者との連携強化

地域産業界のキーパーソンを育成し、就職者を増加させるためには地域関係者との連携を強化する必要がある。強化の度合いを一つの指標として、事業評価報告会の参加者数を年度で比較し、評価の観点に加えた。

#### カ. 取組の独自性

例えば、求人管理システムの構築にあたっては、業者に開発を委託、あるいは既製品を購入して対応することも考えられる。しかし、本学学生のニーズに則したシステムを構築する観点からは、できる限り独自で構築することが望ましい。このことも含め、取組全般で本学の独自性が発揮されているかについても評価した。

### ②到達目標に達したか。

#### ア. 就職実績(資料1、2)

就職決定者の中で山口県内での就職決定率を30%以上とし、全体の就職決定率を80%以上とする目標については、2009(平成21)年度の就職決定率90.0%、うち山口県内24.4%、2010(平成22)年度で就職決定率90.2%、うち山口県内29.7%となり、当初設定した到達目標をほぼ達成した。さらに、就職を希望する学生の4割以上が県内の就職を希望するまでになった。

また、山口県出身者における県内及び周辺地域(中国圏)への就職についても、2009(平成21)年度で県内42.9%(中国圏66.7%)、平成22年度では県内52.9%(中国圏58.8%)を達成し、目標を十分クリアしている。

#### イ. 学生からの相談件数(資料3、8)

2009(平成21)年度と2010(平成22)年度を比較して、学生からの相談件数は443件から700件と、約1.5倍に達する大幅な増加を示している。具体的な数値

目標は定めていないが、カウンセリング業務の充実  
は図られたと判断している。

ウ. 求人方法の改善（資料1、4）

本学教職員による企業訪問や求人票の送付に加え、  
初めての試みとして、地元山陽小野田市と協働した  
求人活動を行うこととし、市長名で市内の主要企業  
に対して求人の促進を依頼する文書を送付するなど、  
新たな方法を導入した。この結果、山口県への就職  
者に占める市内への就職者の割合が9%から45%へ  
と大きく伸びた。

エ. 技術士資格取得に向けてのより簡便なシステ  
ム構築（資料9）

2010(平成22)年3月、理窓技術士会（母体校であ  
る東京理科大学出身の技術士による団体）との連携  
によって、JABEE 認定課程（日本技術者教育認定  
機構・本学では2005(平成17)年に全学科で認定）を  
修了した学生について、事前に指導技術士を選定し、  
希望者全員が卒業と同時に技術士補として登録でき  
ることとなった。これは全国の大学で初の取組であ  
り、学生の立場に立ったより簡便なシステムを構築  
するという目標を達成することができた。

オ. 地域関係者との連携強化（資料1）

事業評価報告会の参加者数を年度で比較すると、  
2009(平成21)年度と2010(平成22)年度では同数（69  
名）であったが、企業関係者だけで見ると2009(平成  
21)年度で16社22名、2011(平成23)年度で22社30  
名と着実な増加を見せていることから、地域関係者  
との連携強化については目標を達成したと判断した。

カ. 取組の独自性（資料5～7）

求人管理システムの構築にあたっては、情報技術  
に関して専門的な知識を有する職員と就職担当の職員  
が連携して独自開発を行い、学生に企業訪問で得た最  
新の採用情報を提供することができた。また、技術士  
資格取得に向けてのより簡便なシステム構築について  
も、母体校である東京理科大学のネットワークを活用  
して、他の大学にはない独自の制度を発足させた。こ  
れらの実績から、事業全般に亘って、過度に学外の業  
者に依存しない独自の取組を達成できたと言える。

③具体的な成果は何か。

本プログラムは、地方に位置する本学としての特  
性を活かして、基盤となる地域社会とのネットワー  
クを強化し、新たな視点から学生の就職支援体制の  
強化を図るものであり、具体的には以下のような成  
果が表れている。

ア. 地域活性化に貢献できる人材育成システムの

確立

山口県内及び周辺地域への就職を増大させ、県内  
出身学生の地元就職を達成できたことによって、地  
元出身者が地元の大学で学び、地元で就職して地域  
活性化に貢献する、人材育成のサイクルを構築する  
ことができた。これによって、学生の半数近くが山  
口県内での就職を希望するようになり（注1）、また  
副次的な効果ではあるが、山口県出身者の入学実績  
の増加にもつながっている。（注2）

（注1）2010(平成22)年度学生生活アンケート（在籍  
学生の85%から回収）において、43.2%が「山口県  
内で勤務したい」と回答。

（注2）2008(平成20)年度（プログラム開始前）と  
2009(平成21)、2010(平成22)年度の山口県からの入学者数  
57名（20年度）⇒67名（21年度）⇒77名（22年度）

イ. 学生に対する就職支援体制の基盤構築

求人管理システムの整備によって、それまで就職  
資料室でしか閲覧できなかった企業訪問で得た生の  
求人情報を、インターネット上からタイムリーに閲  
覧することが可能となり、学外での就職活動にも活  
用できるようになった。また、厳しい就職環境が続  
く中、カウンセリング環境の充実によって学生の精  
神面での負担を軽減し、よりきめ細やかな学生対応  
が可能となった。キャリア・心理両カウンセラー、  
担当教職員や校医など、学生の態様に応じた相談体  
制を整備し、全ての学生に対して適切な就職支援を  
行う体制が構築できた。本学ではこれを「自立支援  
プログラム」として、今日に至るまで就職支援体制  
の根幹に据えている。

## 今後の計画

1. 当該プログラムの成果をどのように活用してい  
るか。

本プログラムにおいて実現した成果については、  
「地域産業界のキーパーソン育成」を教育目標に掲げ  
る本学において、現在においても就職指導體制の基  
盤として位置付けている。特に、「自立支援プログラ  
ム」の継続的な実施によって、極めて厳しい経済環  
境の中、平成23年度においても就職決定率90.7%を  
達成することができた。

また、「自立支援プログラム」を含め、学生の「社  
会的・職業的自立」を達成するために、新たな視点  
での教育改革を推進することとし、2010(平成22)年  
度に「大学生の就業力育成支援事業」に申請し採択

を得た。本学の学部教育の柱である「ものづくり」を通じて、学生のキャリアを育成するものである。就業力事業における「自立支援プログラム」については2011(平成23)年度から実施しており、本プログラムにおける就職支援的な要素から、より幅広いキャリア育成の観点に立ったものへと進化させている。

さらに、地域との連携においては、本プログラムにおける事業の実績を基に、一層拡大・発展させている。2011(平成23)年4月には、地元の若手経営者を中心に組織される「社団法人小野田青年会議所」と、また2011(平成23)年7月には「山口県中小企業団体中央会」との間で連携協定書を締結し、学生の自立支援・就職支援に資する事業を展開している。

## 2. 今後の計画

不安定な経済情勢が続いている中であって、今後も厳しい就職環境が予想されることから、引き続き大学をあげて学生の就職支援に取り組む。具体的には、昨年度末に実施した企業訪問のデータを求人管理システムに入力し、学生に公開するとともに、カウンセリング体制の強化、企業人事担当者を招聘してのセミナーの実施等、きめ細かい対策を実施する。また、3年生以下の学生についても、本事業で培った地域産業界との連携を基に、ものづくりを中心とした企業見学会の実施、インターンシップの拡充、

キャリア形成のための教育プログラムの実施等、早期から学生の職業観を育成する取組を行う。

なお、就業力事業は2011(平成23)年度をもって廃止されたが、2012(平成24)年度から新たに発足する予定の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に申請し、地域産業界との連携をさらに充実させ、学生の自立支援を一層促進する方向で計画している。

### 就職未内定者への支援策

#### 1. 内定(内々定)のピークを過ぎても内定(内々定)を得られない者への支援策

後期(10月以降)においても内定を得ていない学生に対しては、「進路未内定者ガイダンス」を実施し、学生に直接連絡を取ってアドバイスを行ったり、ハローワークとの連携によって求人のある企業を学生に紹介し、受験を希望する場合は担当教職員が当該の企業を訪問して採用を依頼するなど、年度末まで徹底したフォローアップを実施している。

#### 2. 未内定のまま卒業した者への支援策

該当者には、予め卒業時に引き続き支援する旨伝えるとともに、相談については窓口の他、電話やメールでも適宜対応し、求人情報の閲覧やハローワーク等の紹介を行っている。

## 資料

資料1 山口県内・中国圏への就職決定率の推移

単位：%

		平成21年度	平成22年度
全学生	就職決定率	90.0	90.2
	山口県への就職決定率 (うち山陽小野田市)	24.4 (9.1)	29.7 (45.5)
	中国圏への就職決定率	40.0	51.3
山口県出身者	山口県への就職率	42.9	52.9
	中国圏への就職率	66.7	58.8

※ 中国圏=中国地方5県(山口・広島・島根・鳥取・岡山)

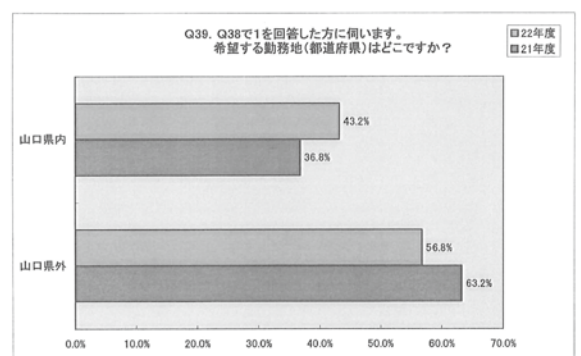
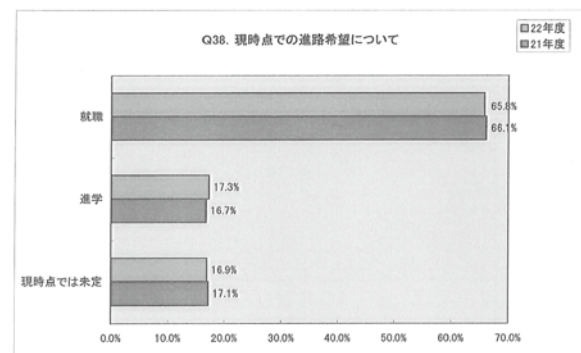
事業評価報告会(山口東京理科大学セミナー)への参加者数

単位：人

	平成21年度	平成22年度
学外(企業関係者)	22(16社)	30(22社)
学外(山陽小野田市関係者等)	33	24
学内関係者	14	15
合計	69	69

V. 就職・進学に関する項目

資料2



資料 3

月別就職内定率の推移

	就職希望者	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成21年度	50名	12.3%	19.7%	26.7%	37.7%	49.2%	58.3%	60.0%	68.5%	70.0%	75.5%	90.0%
平成22年度	41名	9.3%	18.2%	27.1%	29.8%	44.4%	50.0%	55.3%	61.7%	71.1%	80.5%	90.2%

月別就職相談件数の推移

	総件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成21年度	443件	41件	22件	62件	48件	10件	26件	55件	22件	25件	48件	44件	40件
平成22年度	700件	51件	58件	87件	100件	40件	51件	58件	52件	43件	45件	74件	41件

資料 4

拝啓 初秋の候、御社におかれましては、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

平素から、本市商工労働行政の推進に格別の御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年からの未曾有の景気悪化に伴い、就職状況は高等学校をはじめ大学等ほとんどの校種においても厳しい状況が続いており、未就職卒業生や県外就職を余儀なくされる若者が大幅に増加しております。

このような状況を踏まえ、山口県及び本市におきまして、新規学卒予定者の採用枠の確保をお願いしているところですが、この度、地域活性化の推進の面から、あらためて地元大学卒業予定者に対する求人をお願いをさせて頂きたく存じます。

本市におきましては、産業振興の一環として、科学技術の高度化に即応できる技術者の育成を目的として、昭和62年に山口東京理科大学（当初は東京理科大学山口短期大学）に進出を頂き、以来、地域の活性化に貢献されており、特に、近年では地域の産業界で活躍するキーパーソン・リーダーの育成に積極的に努めておられるところです。

本市といたしましては、これら有為な人材が本地域の産業界で活躍し、地域活性化の一翼を担うことを念願してやみません。

貴社におかれましては、どうか、地元大学である山口東京理科大学の卒業予定者に対する採用について御検討いただき、多くの求人をお願いいたします。

末筆ながら、御社のますますの御発展を心から祈念申し上げます。 敬具

平成21年9月

事業主各位

山陽小野田市長 白井博文

資料 5

学校法人 東京理科大学  
山口東京理科大学

★ホーム

受験生の方へ 在学生の方へ 保

★ホーム・就職・進学・就職情報(学内関係者向け)

就職・進学

就職情報(学内関係者向け)  
Job Information

皆さんにとって「就職とは何か」を類的に考えてみると、それは、人生の挑戦、正義と理想の追求、社会的使命の達成、社会的・経済的自立、企業とともにする自己の成長、幸せな家庭生活の設計、そして、平和で優れた社会の建設に関与し、貢献することです。大学生活で得た豊かな人間性や幅広い知識を職業や職域に投入し、実社会において遺憾なく発揮し役立てることは、皆さんの自己実現であり社会的使命です。

合同企業説明会の日程 (2012/12/03)

2013年卒用	エクセルダウンロード
2014年卒用	エクセルダウンロード

- 各都道府県、リクルーター等から主催する説明会を地域・開催地別、日付順に解りやすく掲載しています。
- 説明会(詳細は掲示ポスター等を参照のこと)は、主催者の都合により、日程等が変更・中止される場合がありますので注意してください。

求人情報

2014年卒用	エクセルダウンロード(学内のみ)
---------	------------------

※ 2013年卒用の求人については随時メールにてご連絡します。

- 求人情報については 学内関係者専用パスワードを取得して下さい。
- パスワードを取得した学内関係者については学外から求人情報を閲覧することも可能となります。



## 心理カウンセラーによる心の相談

皆さんは学生生活の中で誰か相談できる人があるだろうか？

- ・ 友達に話せること
- ・ 自分自身で考えること
- ・ 自分以外のひとに話せること
- ・ 人や物事に悩めること
- ・ 将来に悩めること



心理カウンセラーは、心の悩みを相談する専門職です。この中で、大学の各学部の心理カウンセラーが相談し、サポートをしてくれる人がいます。

### 心理カウンセラー

電話：番号 先生（担当の先生）

### 相談時間

水・金曜日（11時～18時）  
※7月から水・金曜日（13時～18時）に変更です。

### 相談場所

心理相談センター（1号館5階）もしくは学生相談室

### 相談方法

入校後希望で相談ができます。もし、来校が困難な場合は電話での相談も行っています。TEL:029-858-1111（入校相談室）

### 相談の目的

悩みの原因を探り、解決の糸口を見つけて、心と体を元気にするための相談です。

平成26年11月10日  
入 校 支 援 課

資料 8 宇部日報 2010 年 3 月 19 日（金）

宇部日報 2010 年 3 月 19 日（金）

# 最短4年で技術士資格

## 全国の大学で初 JABEE修了者を技術士補登録 理科大が取得支援

山口県立理科大学（山口県宇部市）は18日、全国初の大学初となるJABEE（日本技術士会認定）修了者を技術士補登録した。理科大は、技術士補登録制度を利用して、卒業生が最短4年で技術士資格を取得できることを目指している。理科大は、2009年度からJABEE認定校となり、今年度卒業する学生は、すべてJABEE修了者となる。理科大は、卒業生が技術士補登録を受け、最短4年で技術士資格を取得できるように支援している。理科大は、卒業生が技術士補登録を受け、最短4年で技術士資格を取得できるように支援している。理科大は、卒業生が技術士補登録を受け、最短4年で技術士資格を取得できるように支援している。

理科大が取得支援  
技術士補登録制度

## 評 価 結 果

## 評 定 : S

## 評定理由（総論）

山口県内での就職決定率を 10% 程度から 30% 以上に高められるよう、学生への情報提供や地域関係者との連携を強化していること、さらに当該取組の各達成目標における諸成果は、それぞれ高い達成度に到達している、もしくは達成度の指標を限りなく完全に達成しており、高く評価できる。極めて厳しい経済環境にあった 2011(平成 23) 年度においても就職

決定率は 90.7% を達成しており、2009(平成 21) 年度及び 2010(平成 22) 年度に続けて 90% 台を維持している点は、特に高く評価できる。

2010(平成 22) 年 3 月 18 日に全国で始めて、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定の教育プログラムを修了した学部生・院生 22 人を卒業と同時に技術士補に登録することができた点も、当該取組がもたらす特色のある成果として、特に高く評価できる。

今後は、地域産業界との更なる連携の強化に期待したい。

## 実 地 視 察 報 告

視察日：2012(平成24)年10月15日（月）



## 総 評

視察校は日本有数の工業地帯である地元山口県内の経済界並びに行政の要請もあり、地元経済に定着・貢献していく人材の養成も目的に設立されたという経緯がある。地元には山口大学工学部という競合校があるが、そこの卒業生の地元定着率があまり良くないという地元経済界の認識の裏返しでもある。

小規模単科大学の特性を生かして、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定の教育プログラムの導入、地域関係者との連携強化による地元就職率の向上に意欲的に取り組んでおり、目的は果実を結びつつある。

視察時に 2011(平成 23) 年度実績に関する追加資料提出をお願いしたが、これによると、全卒業生に占める山口県内への就職率は 24%、山口県出身者に占める山口県内への就職率は 50% であり、平成

21 年度以降、この水準は概ね維持されていることが確認できた。また、内部評価体制についても、「就職幹事会」議事録の一部を提出してもらい、それが厳密な意味での「評価」とは言えないまでも、実施進捗状況が内部で丹念に共有されていることが分かった。さらに、学生向けの「Placement Support Book」という小冊子の提供を受けたが、これは内容も充実しており、他大学でも参考になろう。

また本事業の継続・拡充として「平成 23 年度文部科学省・大学生の就業力育成支援事業：ものづくりから生み出すキャリア育成」が実施されていることも確認できた。極めて短時間ではあったが、視察校関係者の入念な準備もあり、書面審査資料記載事項について丹念に確認することができた。その結果、対象校からの記載事項は正確であり、それを受けての書面審査における「評価結果通知」の「評定理由（総論）」の記載内容が的を射ているものと改めて確信できた。